

まちづくり ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>



122号
2010年7月23日

ときわ台の景観を守る会
ときわ台まちづくり委員会
代表 鈴木博之 近藤洋子
事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

協力金振込先 郵便局00110-3-739728 ときわ台の景観を守る会

○ 日本建築センターへの訴訟却下 — 部分判決 —

16日(金)13時半、いつもの522号法廷で日本建築センターの分離判決があった。

日本建築センターの主張は、建物竣工による完了済み証の発行により、訴えの利益は消失し、建築確認を下ろした責任を問うこの裁判は無効というもの。裁判所はこれを認め、私たちの建築センターへの訴えは却下となった。いわゆる「建て得」を許してきた従来業者寄りの姿勢を一步も出ない判決であった。

行政訴訟というものは、そうやって業者やその利益を優先させた行政を庇護してきたのだ。その結果、日本国中、無責任な巨大ビル・巨大マンションが大手をふるって環境も景観も台無しにしてきたのである。

却下の理由は、義務付け訴訟によって訴えを持続することは可能だから、というもので、先日私たち原告は、不法な建築行為に対して是正命令を出す義務を問う訴訟(義務付け訴訟)を追加しているが、この義務は板橋区だけが負っているので、建築センターはこれ幸いと裁判から抜けたことになる。建築確認を民間に委託するようになったツケが回ってきたことか。

○ 日本建築家協会城北支部 常盤台を探訪

7月17日(土)、日本建築家協会の城北支部が街歩きに常盤台を訪れた。午前中、練馬区向山を上野泰さんの案内で、午後、常盤台を景観アドバイザーである清水正俊さんの案内でまわり、夕刻から介護センター2階で二人の説明を聞いた後、意見交換があった。その後何人かは夕食をとりながら歓談して行ったようだ。各地の住宅地を比較することは有意義であろう。

○ 「常盤台学生会」の指導者

先日の写真展では、Nさんから学生会の人たちの楽しそうな写真が提供されました。女装の人もいて、喜劇を演じた後のようでした。N家の庭ではレコードコンサートもあったそうです。そういう時の学生たちの指導には、1丁目に住んでいた中島さんという方が当たっていたのですが、俳優夏木まりさんのお父さんだそうです。

○ 藤和マンション行政訴訟

第8回口頭弁論が7月14日(水)11時に522号法廷であった。

裁判長は結論を急いでいる模様。しかし、原告適格の問題も審議しながら本論にも補充をと言っている。上記の判決から見ても、門前払いではないがそれに近い形で結論が早まる恐れはある。

次回9月10日(金)11時522号法廷

○ 板橋で集中豪雨

7月5日(月)夕刻からの集中豪雨で板橋・北地区に浸水被害があり、全国的なニュースになった。地方の知人から安否を気遣われた人も多かったのではないかと。都心の熱気が夜になると海風に寄せられて板橋区付近に移動し、我々板橋区民はいくら緑化をし、エコに精出しても、熱帯夜を過ごさねばならず、南風が吹いて雨雲が通過すれば、今回のように集中豪雨となってしまうということだ。所々に屹立する高層ビルも雨雲の発生に無関係ではないとか。

昆虫不在の怪

常盤台公園で七月中旬、Tさんが昆虫の調査を行ったところ、蟻と若干飛んできた蜂以外、なんにも見つかりませんでした。蟬もそろそろ抜け殻があつて、うるさいほど鳴いても良いのに一匹もないのです。レイチエル・カーソンの言う「沈黙の春」がいよいよ訪れたのでしょうか。

今春、くちばしがイスカのように曲がったスズメの雛を見ました。すぐに見かけなくなりましたが、あれでは普通に育つわけがありません。スズメの少子化が言われていますが、果たして住宅難だけが原因でしょうか。私たちの知らないところで異常な固体は静かに淘汰されているのかもしれないのです。

何が原因かは分からないとしても、とりあえず殺虫剤・消毒薬・除草剤の類をまかないでみませんか。青虫などの昆虫が影響を受け、それを食べる鳥に化学物質が収斂し、回りまわって人間にも変異が出ることになるのではないかと不安です。

常盤台の格差 つづき

分譲住宅地とその周辺とでは、格差は歴然としていました。

子供たちにはそんなものは関係なく、みんな仲良く遊びまわっていたのですが、大人の価値観はいつか子供の世界にも反映されてくるものです。お屋敷街の子というだけで特別視された経験を持つ人も多いはずです。(それはいつか、言い知れぬ居心地の悪さと共に、優越感や差別意識などを徐々に作って行ったかもしれないが。)

ねたみ・そねみから子供の世界でもいじめがありました。学校の先生から「お宅のようなお屋敷では云々」と面談の際に嫌味を言われた親もいます。「お高い」とか「気取っている」とか、富裕層への反感が、こびへつらいの陰にのぞいていたことでしょう。

一方、心無い差別に嫌な思いをした人も沢山います。写真展では、友達のお母さんが、「共同住宅に住んでいる子なんかと遊んではいけません」と言っているのを聞いて、二度と遊びに行かなかつたと言う人がいました。また、商店街との境目にある細い道で遊んでいると、お屋敷から白い猫が出てきたので、皆で可愛がっていたら、女中さんが出てきて、「汚い手で触らないで！」と猫をひたたくって行ったとか。

それでも、そのような問題を乗り越えて、私たちは常盤台を懐かしく誇らしく思うし、常盤台が今も区民の憧れであるということも確かです。

H・S

常盤台公園のはなづくり

今年のユリはなかなか花つきが良かったようでした。花が終わって直ぐ根元から折ってしまったり、肥料を忘れると、栄養を球根に貯めることが出来ず、翌年の花が少なくなってしまう。花後の「お礼肥え」を忘れないようにしましょう。

鉄砲ユリから始まってカサブランカに終わるまで、ユリは品種ごとに花期が異なり、一ヶ月以上も楽しむことができます。来年はちよつと「高値のユリ」だけれど、ヤマユリも植えてみたいと思います。

去年はずいぶん折り取られました。今年も二、三本で済みました。板橋区民が公共心を身につけるには百年ぐらいかかるでしょう。

好奇心旺盛な幼児が、柵の向こうのタマリユウをむんずと掴んで引き抜きそうだったので、あわてて止めさせました。住宅地での自然と、本物の自然とは違うことを知ってもらわなくてはならないのです。しかし、子供は手に触り、引きちぎったりして世の中のものを確かめようとするもの。大事な経験のチャンスを奪ったことにもなったのは、心のどこかに引っかけかかります。私たちの子供時代のように、誰にも気兼ねしないで済む野原があるといいのに・・・

定例会 八月十四日(土) 七時

「ギャラリ―服部」にて